特定非営利活動法人
名称変更しました!
日本がん登録協議会（旧称：地域がん登録全国協議会）
JACR Japanese Association of Cancer Registries
NEWSLETTER 年3回発行
JACR ニューズレター
September.2016 No.40

2005年 保健文化賞 受賞

2016年 朝日がん大賞 受賞

新生JACRに思う—なぜ名称変更か?—

田中 英夫 理事長
愛知県がんセンター研究所　疫学・予防部

6月3日に金沢市で開かれました平成28年度の通常総会におきまして、当会の名称を「日本がん登録協議会」に変更することが、全代表会員の賛同を得て可決いたしました。今年度末までは旧名との併記をいたしますが、来年度からは新名で統一することになりました。また、英語表記は現在のものを用いることとしました。

平成24年に47全ての都道府県で全国がん登録事業が実施されるようになり、また本年1月からいわゆるがん登録事業が国の事業としてスタートしました。このような大きな時代の変化を踏まえたこれからの当協議会の活動のあり方について、理事会は議論を重ね、向こう5年間のビジョンとミッションを策定しました。その概要は次頁に詳しくありますが、これまで重点的に取り組んで来ました都道府県単位のがん登録事業への支援活動に加えて、支援活動の対象・範囲をがん患者さんとその家族や、がん登録由来データを利活用する研究者、企業・団体に広げることになりました。また、院内がん登録事業に関しても、各病院毎の医療機能評価にデータを用いる段階から、医療圏や県レベルでの機能評価や医療格差の↘是正に向けた取り組みにデータが生かせるような支援活動や、研究発表の場の提供を目指します。そしてJACRの良さは、これらの活動を全国規模で展開し得るネットワークを持っていることです。このような新たな活動方針に相応しい名称として、「日本がん登録協議会」と改名することになりました。

日本では、がんの罹患率を計算できる、人口集団が定義された中で行う登録事業のことを「地域がん登録」と長年称してきました。私も含め、これまで地域がん登録事業に長く関わってこられた方ほど、「地域」という名前が今後次第に使われなくなって行くことに、一抹の寂しさを感じられるのではないかと思います。しかし、JACRが新たな気持ちでビジョン・ミッションに取り組む決意表明として関係者の皆様にはご理解いただき、一層のご支援を賜わることができれば、こんなに嬉しいことはありません。今後、「がん登録」をキーワードとした様々な立場・分野の方がさらにJACRに集い、より深化した化学反応が起きて、日本のがん医療・予防の向上につながることを願っています。

—メスキュード医療安全基金から寄付金が—

JACRは今年の3月にメスキュード医療安全基金から、24年間に渡る地域がん登録事業への支援の実績を評価され、また、今後のさらなる活動への期待から、寄付金（200万円）の贈呈を受けました。5月30日（月）に厚生労働大臣室において、塩崎恭久厚生労働大臣や坂口力元厚生労働大臣立ち会いの下、目録の贈呈式がありました。当日は田中理事がJACRを代表して、高島浩司メスキュード医療安全基金理事長から目録を受領しました。

新生JACRのスタートの年として、関係者一同、大変励みになる有難い事でした。いただいた寄付金は、個人情報の安全な取扱い体制の整備などの、今後JACRが強化する事業に活用させていただきます。同基金に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。（事務局記）

ビジョンとミッションについて

1. 経緯

日本がん登録協議会(旧称:地域がん登録全国協議会)は、都道府県を実施主体とする地域がん登録事業の未実施県への導入の支援、各県における同事業の登録精度の向上を図るための技術支援、登録業務に従事する職員の技能向上を図る取り組みなどを行うことを主な目的として、1992年に設立されました。2010年にNPO法人格を取得し、事務局機能を強化して定款に基く各種事業の実施の強化が図られました。議決権を持つ正会員となった自治体は、設立当初の30府県1市から2016年には47都道府県1市に増加しました。

地域がん登録事業は、2012年に東京都と宮崎県が事業を開始したことで、全国47都道府県で実施されるに至りました。また、2016年1月に「がん登録推進法」が施行となり、いわゆるポピュレーションベースのがん登録は、国の事業となりました。

このように地域がん登録事業に対する公的な枠組みの強化が図られたことから、今後のJACRは、病院、自治体などでがん登録業務に従事する職員を対象とする活動だけでなく、国民ががん登録事業に対して示す期待、すなわちがん登録のがん医療・予防へのさらなる貢献への期待にも応える活動により積極的に取り組む必要があります。JACR理事会は、当協議会の24年間の活動経緯を踏まえた上で、このような最近の情勢の変化に対応すべく、JACRの今後5年間のビジョンとミッションを表明します。

2. ビジョン

がん登録事業の充実と、がん登録由来データの利活用の充実を支援することで、市町村レベル、都道府県レベル、国レベルで、科学的かつ効果的ながん対策が推進されることに寄与するとともに、都道府県、がん患者会等と連携してがん登録等由来データを国民にわかりやすく提供し、がん患者とその家族が安心して療養・生活できる情報環境の実現に貢献します。

3. ミッションと対応する活動項目

(1) ミッション1:
院内がん登録を含むがん登録事業の充実を支援する

1)正会員(登録会員)はじめがん登録関係者間の情報交換手段の提供、交流の場の設定
2)正会員(登録会員)はじめがん登録事業関係者に同事業の発展に資する最新情報をわかりやすく提供
3)個人情報の取り扱いに関するがん登録事業の管理者と実務担当者に対する、安全管理措置に関する支援
4)実務担当者を対象とした教育・研修、支援
5)正会員(登録会員)および院内がん登録の実務担当者等への技術的助言
6)社会に対するがん登録事業の意義を発信
7)がん登録関係者の国際交流活動を支援

(2) ミッション2:
院内がん登録を含むがん登録由来データの利活用の充実を支援する

1)正会員(登録会員)のがん登録由来データの県民への発信に関する技術支援
2)がん登録由来データを有効かつ安全に利活用できる人材の育成
3)同由来データが利活用された成果を発表する機会の提供
4)市町村・都道府県等が同データを利活用するときの技術的、制度的支援
5)正会員(登録会員)のがん登録由来データの海外への発信に関する技術支援
6)研究機関、民間企業・団体等のがん登録由来データの利活用を支援

(3) ミッション3:
がん患者とその家族が必要とするがん登録関連情報をわかりやすく発信する

1)がん体験者での初発のがんとは異なるがんの罹患リスク(多重がんリスク)、がん体験者の長期間に渡る生存率(サバイバー生存率)などの新たな情報を、ホームページなどの各種媒体により発信
2)がん患者会等と連携した、講演会などの情報支援活動や、がん登録由来統計データの利用状況のモニタリング活動などの諸活動

日本がん登録協議会（JACR）の目的・ビジョン・ミッション

目的（定款第3条）　**国民の保健、医療、療養の増進に寄与**

ビジョン

1.科学的かつ効果的ながん対策の推進に寄与
・市町村レベル・都道府県レベル・国レベル

2.がん患者とその家族が安心して療養・生活できる情報環境の実現に貢献

ミッション

1　がん登録事業の充実を支援する

・登録会員、がん登録関係者間の情報交換・交流支援・最新情報の提供・国際交流支援
・安全管理措置支援
・院内がん登録を含む実務担当者支援
・登録会員等への技術支援
・社会への情報発信

2　がん登録由来資料の利活用の充実を支援する

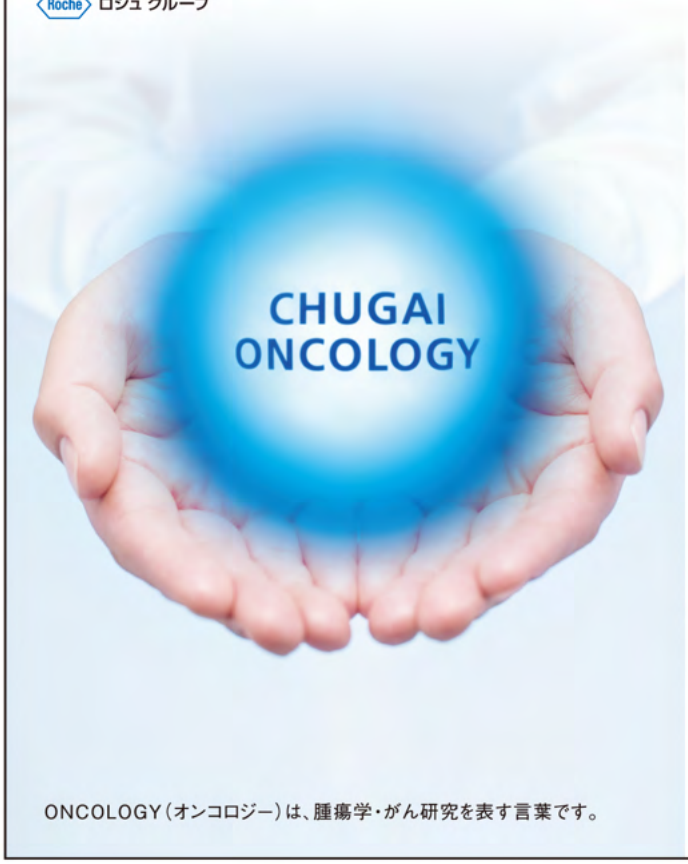
・県民への情報発信に関する技術支援
・有効かつ安全に利活用できる人材育成
・利活用の成果を発表する機会の提供
・自治体、研究機関、民間企業・団体等が利活用するときの技術支援

3　がん患者、その家族が必要とするがん登録関連情報をわかりやすく発信する

・多重がんリスク、サバイバー生存率などをホームページ等で発信

・がん患者会等と連携した講演会、情報利用のモニタリング活動

すべての革新は患者さんのために
中外製薬
ロシュ グループ



ONCOLOGY（オンコロジー）は、腫瘍学・がん研究を表す言葉です。

がんに立ち向かう患者さんに
希望をお届けするのも、
私たちの仕事です。

すべては、患者さんが希望をもってがんに立ち向かえるがん医療の実現のために。私たち中外製薬は、革新的な医薬品の研究開発・生産・情報提供はもとより、患者さんやご家族、医療関係者に向けたセミナーの開催、最新がん医療の紹介など、さまざまな支援活動を行っています。

がん医療の最前線で、ともに。
中外オンコロジー

がん情報ガイド　検索　http://gan-guide.jp

第25回JACR学術集会　開催報告

西野 善一　副理事長／第25回学術集会会長
金沢医科大学医学部公衆衛生学

第25回学術集会を平成28年6月2日、3日に金沢市の石川県女性センターで開催しました。幸い両日とも天候に恵まれ、2日のがん登録担当者研修会には167名、3日の学術集会には181名のご参加をいただきました。全国各地よりお越しくださいました参加者の皆様、ならびに演者、座長を務めていただきました先生方に心より御礼申し上げます。

ご承知のとおり今年1月より「がん登録等の推進に関する法律」が施行され全国がん登録がスタートしました。法律の基本理念である全国がん登録情報の調査研究への十分な活用と成果の国民への還元をどのように行っていけばよいかを議論することができればと考え今回の学術集会のテーマは「全国がん登録の保健・医療への貢献」としました。

2日午後のがん登録担当者研修会では「全国がん登録における情報の利用と提供」をテーマに3人の方からお話しをいただきました。世界のがん統計情報公表の現状と全国がん登録の統計情報公表の予定、全国がん登録情報の提供の時期や方法、内容に関する現時点での計画と課題、活用事例としての患者住所と医療機関の距離と診断時病期、生存率との関連の検討結果のご発表があり、今後各都道府県において全国がん登録情報の集計結果の公表や利活用を進めていく上で貴重な情報を得る機会となりました。研修会後には金沢都ホテルで情報交換会を開催しました。金沢医科大学クラシック音楽部の演奏や石川の地酒とともに大いに情報交換をいただけたものと思います。

3日の学術集会では会長講演の後、招請講演として山田圭輔金沢大学附属病院緩和ケアセンター長から「がん哲学外来とは何か」の題でお話しをいただきました。がん哲学外来を志すきっかけから実践の基盤となるロゴセラピーの考え方までをわかりやすく話され多くの方から好評をいただきました。総会、ポスター発表の討議時間の後、昼食時に福吉潤株式会社キャンサースキャン代表取締役のランチョンセミナー講演「がん検診受診率を上げる!行動変容マーケティングの科学的アプローチによる先進事例」、午後に西本寛国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センター長の教育講演「がん診療連携拠点病院院内がん登録生存率集計をどう生かすか」と学術委員会企画シンポジウム「全国がん登録の活用をいかに進めるか」を開催しました。シンポジウムでは対策、検診精度管理、生存率の都道府県較差の分析、診療実態把握への活用に関する各演者からの講演の後、患者会のお二方より講演、特別発言をいただくとともに総合討論に加わっていただきました。がん登録からどのようにして求められる情報を生み出して届けていくかということを考えていく上で非常に意義のある討論が行われました。

ポスターは33演題の発表があり、学術委員会が最優秀賞1、優秀賞2、特別賞（グッドプラクティス賞）1、特別賞（グッドプレゼンテーション賞）1を選考し閉会式で表彰しました。がんの罹患や予後、がん検診の現状を地域がん登録データ等から分析して対策に生かすことを目指した意欲的な発表が目につきました。

今回の学術集会は石川県、石川県医師会、金沢医科大学の関係者が中心となり、多くの諸団体のご後援、ご協賛、ご寄付をいただき開催しました。おかげをもちまして盛会のうちに無事終了することができました。ご協力いただきました全ての皆様に感謝申し上げます。来年の学術集会は愛媛県で開催されます。ご成功を心よりお祈りしております。

学術委員会企画シンポジウム総合討論

実務者研修会　報告

田中 里奈
弘前大学 大学院医学研究科 医学医療情報学講座

6月2日、金沢市の石川県女性センターで開催されたがん登録担当者研修会では、167名の方に参加していただきました。今回の研修会は「全国がん登録における情報の利用と提供」をテーマとして、国立がん研究センターの柴田亜希子先生司会・進行のもと、国立がん研究センターの松田智大先生、柴田亜希子先生にご講演いただきました。

全国がん登録が開始され、データを集めたあとの話（＝がん登録データの利活用と情報提供）がいよいよ現実的になってまいりました。松田先生のご講演では、がん統計の情報を公表している国際機関や各国のがん統計情報の現状と、日本での統計情報の公表計画についてご説明いただきました。柴田先生のご講演では、がん登録データの情報利用と提供について、全国がん登録データを実際に利用するときにはどうするべきか、都道府県単位と研究者個人単位の両方の観点から、がん登録推進法に触れつつご説明いただきました。日本のがん登録について、今度はデータを集めるだけではなく、せっかく集めたデータは利用しなければならない、日本の↗↘がん統計情報を日本はもちろん世界へ発信しなければならないという、両先生方の強い思いを感じる研修会となりました。また、研修会の最後には、がん登録データの活用事例といたしまして、昨年の学術集会でポスター発表した研究についてご報告させていただきました。貴重な発表の場をいただき、ありがとうございました。

全国がん登録が開始した第一回目の記念すべき学術集会・研修会に参加させていただいたことを心より光栄に思います。また、日本のがん登録の歴史の変わり目に立ち会えたことを嬉しく思います。今後はますますデータの利用が重要になってきます。今回の研修会は、全国がん登録データを利用した科学的根拠のあるがん対策や、患者さんが本当に必要とするデータの提供などに繋げるための第一歩だったのではないかと感じられました。

関連学会一覧

2016（平成28年）

日程	学会名	開催場所
10月 6日（木）～ 8日（土）	日本癌学会学術総会（第75回）	神奈川県 パシフィコ横浜
10月19日（水）～21日（金）	国際がん登録協議会年次総会（IACR）	モロッコ　マラケシュ
10月20日（木）～22日（土）	日本癌治療学会（第54回）	神奈川県 パシフィコ横浜
10月26日（水）～28日（金）	日本公衆衛生学会（第75回）	大阪府　グランフロント大阪

登録室リレー随筆

神奈川県立がんセンター臨床研究所がん予防・情報学部 研究員 阪口 昌彦

大学院時代は数学を学び、臨床研究の世界からがん登録の分野へ。

私は大学院時代数学を学び、確率最適化手法の1つであるR.Bellmanが生み出した動的計画法を用いた研究を行いました。動的計画法は今日では待ち行列理論やノーベル経済賞を受賞したR. Lucasの仕事である最近のマクロ経済を記述する一方法としても用いられています。医療の世界で動的計画法といえば医療意思決定に用いられるMulti-armed bandit problemをお聞きになられた方もいらっしゃるかと思います。

このように実学で用いられていることの多い数学の中で生きていましたが、2年ほど前に高知大学医学部付属病院次世代医療創造センターに入り、臨床研究のデータマネージャとしていくつかの研究に携わりました。大学の数学科で数理統計学の基礎を学んでおりましたが、さっぱり何のことかわからないといった記憶しかありませんでした。検定論を学んでもガウス分布に従うデータとどうしてわかるのか、平均の差の検定では2つの母集団は違うものだからもともと母平均は違うのは当たり前ではないかといったものでした。そのような疑問はすっかり忘れていましたが、臨床研究の世界に入って実際のデータに基づく医学統計研究をするようになり、データの対数変換や臨床的に意味のある効果量設定に基づくサンプルサイズ計算を実際に行うと学生時代の疑問が記憶に蘇ってきました。生のデータに対する正規分布性を考えるのではなく、根拠をもって正規分布にする、また、実行可能性のみに頼ったサンプルサイズで帰無仮説の下、解析するのではなく、解析順序を決定し、臨床的に意味のある差を設定してサンプルサイズを決定し、それに基づいてデータ解析するのだといった考え方を学べたことを嬉しく思えました。

ところで、私が以前いた臨床研究支援の世界では、研究基盤のIT化の遅れが叫ばれていました。大阪大学の山本景一先生との出会いで世界アカデミアの標準ツールとして使用といわれている米国ヴァンダービルト大学で作られたデータ収集システムであるREDCapを知ることができました。大阪大学と関連病院が協力した臨床研究を行うための手術データベース管理でREDCapを用いて、そのデータの一部に個人情報を付加して昨今がん登録とのリンケージが話題にもなる日本外科学会が主催する手術症例データベースNational Clinical Database（NCD）へ橋渡しをすることで2重入力を解消するなどの効率化を図った運用をされているようです。

この研究は、匿名化された臨床研究データベースと個人情報が付加されたデータベースとの関係のお話ですが、今後は既存のデータベースとのリンケージが進むことや全国がん登録データベースに触発された臨床研究データベースが立ち上がることが予想され、楽しみにしております。がん登録の分野に入ってきたばかりの者ですが、精いっぱい頑張りますのでご指導頂けたら幸いです、お願い致します。

がんと闘う患者さんの、
がん患者さんを支えるご家族の、
QOLを高めるお手伝いをします

ガーベラの花言葉「希望」「常に前進」

「快適な空間を届けたい」
それがレナテックの想いです。

Quality of life (クオリティ オブ ライフ)
「生活の質」の向上を QOLFANで叶えます

http://renarent.renatech.net/

Renatech レナテック Metallo-balance RenaRent レナレント

登録室ご紹介

Nagasaki

長崎県

長崎県がん登録室　永吉 明子　早田 みどり

長崎県の概要

長崎県は全国一の離島県で、県人口の8.6%が離島に住んでいます。県内には8医療圏があり、4医療圏に6か所のがん診療連携拠点病院と2か所の県指定がん診療連携推進病院があります。離島の4医療圏にはそれぞれがん診療離島中核病院が定められています。

長崎県のがん登録の歴史と精度向上に向けた取り組み

長崎のがん登録の歴史は古く、全国3番目のがん登録として、昭和33年に長崎市医師会腫瘍統計委員会が長崎市および周辺に住む住民を対象とする腫瘍登録を開始しました。原爆被爆者に発生するがんを正確に洩れなく把握することを目的としており、開始当初より職員が医療機関へ出向きカルテからがん罹患に関する情報を抽出する「採録」を行ってきました。採録対象施設は入院施設のみならず、病理施設、放射線科診療所にも及びました。

昭和49年には病理医の集団からなる組織登録委員会が県の南半分の病理施設を対象に腫瘍組織登録（病理登録）を開始しました。昭和60年には県全域を対象とした長崎県がん登録が開始されました。その後も採録というスタイルは長崎市外の医療施設にも適用され、離島も例外ではなかったために、天候に泣かされたことも度々ありました。登録エリアが長崎県に拡大されたことに伴い、病理施設での採録は中止となり、病理登録のデータを長崎県がん登録に取り込むことになりました。病理登録でカバーされていない市外の施設における採録の際は、病理情報の取得にも力を注いできました。

平成20年7月には「長崎県がん対策推進条例」ができ、条文の中に「がん登録の推進」が掲げられました。時を同じくして、腫瘍統計委員会は発足50周年を迎えたのを機に発展的解消され、同時に組織登録事業が長崎県がん登録に統括されました。↗

↘がん罹患情報の量と質の確保がある程度軌道に乗ったことを踏まえ、次は、予後不明割合を把握する目的で、平成22年より長崎県を通じて県下各市町へ住民票照会を開始しました。個人識別情報を医療機関へ問合せするなど予後不明者の削減に努力した結果、調査開始以降は県外転出者を含む予後不明者の割合はおおよそ2%以下となっています。

近年、各県のDCO%が急激に低下していく中、停滞感のあったDCO%を何とかもう少し下げたいという願望から、平成25年より拠点病院を手始めに「遡り調査」を開始し、平成27年からは県下の各病院へ対象を拡大しました。これによりDCO%が平成24年罹患集計では初めて5%以下となりました。

今後の課題と展望

長崎の特徴として、これまでは採録を行ったり、届出用紙以外にも病理診の写し等様々な形で届出を受理していました。平成28年罹患症例からは全国がん登録の対象となるため、これまでの独自登録様式に区切りをつけ、新たなスタートとなります。そのため、全国がん登録の届出に戸惑う病院も多いのではないかと危惧しています。

また、長崎では地域がん登録のデータを国がん都道府県DBに預けていないために平成27年以前の罹患症例に関しては死亡の確認や生存確認調査を自前で行う必要が生じます。

原爆被爆者のがん発生を把握する目的で始まった長崎がん登録にこれまで携わってこられた諸先輩方の努力と熱意に感謝しつつ、これからの全国がん登録においても医療機関の方々のご協力のもと精度の高いがん登録をめざし、努力していきたいと思っております。これからもよろしくお願いいたします。

埼玉県

埼玉県保健医療部疾病対策課

Saitama

登録室ご紹介

埼玉県のマスコット　コバトン

埼玉県の概要

埼玉県は関東平野の内部に位置する内陸県で、1都6県に接し、面積は約3800㎢、人口は約720万人で平成22年国勢調査では全国第5位。63市町村（40市22町1村）から構成され、10の2次医療圏に、がん診療連携拠点病院が13か所と県指定のがん診療指定病院が13か所となっています。75歳以上の人口が総人口に占める割合は8.2%で年々増加はしていますが、全国47位で最も低い割合です。本県は、首都東京に隣接し、様々な情報に接する機会に恵まれ、発達した公共交通機関や道路網を持つという都市の魅力と、水と緑に恵まれた田園の魅力を併せ持っています。

埼玉県がん登録の歴史

本県の地域がん登録事業は、平成23年9月より一部の医療機関を対象に開始し、平成24年1月から県内のすべての医療機関を対象にしました。平成24年9月から標準データベースへの入力をしています。また、平成26年2月に、登録室を県庁内から新しい県立がんセンターへ移しております。そして、平成26年度から遡り調査を実施し、平成27年度に初めてMCIJにデータを提出、平成28年3月に初めての報告書「埼玉県のがん2012」を発行することができました。

現在の登録室の体制は、常勤は医師1名（病院業務と併任）、保健師1名、非常勤に看護師1名、保健師1名、臨時職員4人／日となっております。↗

埼玉県立がんセンター

↘現状と課題

登録室が県立がんセンター内に移設されたことで、セキュリティーを始め、空調設備、職員食堂等、働く環境として非常に良好になりました。地下にある登録室ですが、窓もあり空模様も確認することができます。日々の仕事は和気あいあいと、とても楽しく進められています。

埼玉県がん登録室の様子

本県の都道府県がん診療連携拠点病院に登録室が移ったことから、院内がん登録部門との連携も図りやすくなり、がん診療連携協議会の院内がん登録部会と共同開催でがん登録に関する研修会を実施することもできるようになりました。2012年の年齢調整罹患率を部位別に見ると、ほぼすべての部位で全国推計値より低い値になりました。本県の特徴として、東京都へのアクセスの良さから都内の医療機関を受診する患者がとても多いことがあげられ、そのため登録漏れが多くなり、見かけ上低くなっている可能性が考えられます。全国がん登録になり、患者の正確な受診が把握可能になり、埼玉県のがん罹患の実態が明らかになると期待しています。

日本医師会共催シンポジウムのご案内

テーマ

本当に 増えているがん、減っているがん

―― がん登録推進法施行1年を経て ――

日時 2016 11/12 (土) 13:30 - 17:00

会場 日本医師会館大講堂
(東京都文京区本駒込2-28-16)

講演プログラム

開会あいさつ 日本医師会会長 横倉 義武

来賓あいさつ
厚生労働大臣 塩崎 恭久 (予定)
日本対がん協会会長 垣添 忠生
国立がん研究センター理事長 中釜 斉
全国がん患者団体連合会理事長 天野 慎介

シンポジウムⅠ 「増えているがん、減っているがんのなぜ？」

司会：田中 英夫 (JACR理事長、愛知県がんセンター研究所 疫学・予防部長)

- 減っているがんのなぜ？(胃、肝、男性肺)
  西野 善一 (JACR理事、金沢医科大学医学部 公衆衛生学教授)
- 増えているがんのなぜ？(女性乳房、子宮頸部)
  伊藤 ゆり (JACR専門委員、大阪府立成人病センター 疫学予防課主任研究員)
- 注目のがんのなぜ？(前立腺)
  斎藤 博 (国立がん研究センター 社会と健康研究センター検診研究部長)
- 注目のがんのなぜ？(甲状腺)
  津金 昌一郎 (国立がん研究センター 社会と健康研究センター長)

シンポジウムⅡ 「20年後のがんの光景は？」

司会：大木 いずみ (JACR理事、栃木県立がんセンター がん予防情報相談部部長)

- 日本のがん罹患の将来像
  片野田 耕太
  (国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センターがん登録統計室室長)
- 世界のがん罹患の将来像
  堀 芽久美
  (国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センター研究員)

パネルディスカッション 「がんを減らすために何が必要か？」

司会：祖父江 友孝 (JACR専門委員、大阪大学大学院医学系研究科教授)

津金 昌一郎 (国立がん研究センター社会と健康研究センター長)
羽鳥 裕 (日本医師会常任理事)
斎藤 博 (国立がん研究センター社会と健康研究センター 検診研究部長)
田中 英夫 (JACR理事長、愛知県がんセンター研究所疫学・予防部長)
天野 慎介 (全国がん患者団体連合会理事長)

参加申し込み http://www.jacr.info/symposium/sympo_entry.html

特定非営利活動法人 日本がん登録協議会

JACR事務局だより

特定非営利活動法人　日本がん登録協議会事務局
太田 樹里

正会員の入会について 1

今年度より鹿児島県にご加入いただきました。今後も、皆様からの御賛助によってがん登録事業の必要性と御理解を深めていただけるよう、今後も活動して参ります。

学術集会開催地について 2

平成29年度に開催する第26回学術集会開催地が、愛媛県に決定いたしました。今後、ウェブサイトでも情報を公開いたします。

刊行物の販売について 3

定期刊行誌のMonographを定価¥2,300（税抜）より販売しております。その他、冊子販売も行っております。ご購入を希望される場合は、協議会あてにE-mailもしくはFAXにてご連絡ください。

平成28年度刊行予定のMonograph22についても、販売を予定しております。

Monograph No.21
定価¥2,500（税抜）
2015年発行

特定非営利活動法人 地域がん登録全国協議会

平成28年度通常総会報告

特定非営利活動法人地域がん登録全国協議会平成28年度通常総会を、2016年6月3日（木）石川県金沢市の石川県女性センターにて開催いたしました。当日は29名の方にご来場いただきました。お忙しい中ありがとうございました。以下、平成28年度通常総会決議事項をご報告いたします。

平成28年度　通常総会

正会員49名中　出席者49名　欠席者0名
出席者の内、本人出席14名、代理出席者へ表決委任15名、理事長を代理人として表決委任21名、表決権行使書による表決1名、合計49名

第一号議案	平成27年度の事業報告（事業報告、決算報告、監査報告）の件　（承認）
第二号議案	平成28年度の事業計画書（修正案）と活動予算書（補正案）の件　（承認）
第三号議案	平成29年度の事業計画書案と活動予算書案の件　（承認）
第四号議案	第26回学術集会会長の選任の件 本件は、理事会より選出された寺本典弘氏（愛媛県）が選任され、就任いたしました。
第五号議案	理事・監事の選任 定款により理事及び監事の全員が平成28年6月末日をもって任期満了となるのを受け、原案通り、平成28年7月1日以降の役員として、理事7名、監事1名の重任が承認されました。また、新たに3名が理事に選任され、就任いたしました。 7月1日就任（任期：～平成28年6月30日） 理事長　田中英夫氏 副理事長　西野善一氏、猿木信裕氏 理事　三上春夫氏、茂木文孝氏、安田誠史氏、大木いずみ氏、松坂方士氏、宮代勲氏、田渕健氏 監事　片山佳代子氏
第五号議案	ビジョン、ミッションの承認 本件は、原案通り可決されました。
第六号議案	定款第1条の変更の件 本件は、原案通り「日本がん登録協議会」への名称変更が可決されました。
報告事項	・会員数、役員、専門委員についての報告 ・シンポジウムの開催ついて

以上

モモコさんと紫本

画：いのうえつぐみ

第 16 話　龍馬

第 15 話　天下をとりに行くぜ

編集後記

今号よりNL編集後記を一人ずつ担当することになりました。この40号は新生JACRのお披露目の号でもあり、また朝日がん大賞を受賞した嬉しい報告記事も掲載することのできた記念号です。そして「日本がん登録協議会」と改名した新生JACRはがん登録事業への支援活動に加えて、支援活動の対象をサバイバーの皆様へ広げ、よりわかりやすくためになるがん情報発信も全国規模で展開していこうとしています。NLの役割も広報としてこれらの活動を支えていけたらと思います。今後ともよろしくお願いします。(片山)

私たちは日本がん登録協議会を支援しています

がん登録の充実と発展を願い当協議会の活動に賛同、ご支援いただいている賛助会員（団体・個人）の皆様です。

社団法人 全日本コーヒー協会
日本医師会
NISSAY
東京海上日動あんしん生命
東京海上日動火災保険
FUJITSU
公益財団法人 日本対がん協会
Aflac アフラック
MSD
日本歯科医師会
Yakult
Synix サイニクス株式会社
FALCO
おいしさ、そして、いのちへ。 Eat Well, Live Well. AJINOMOTO
Renatech レナテック
損保ジャパン日本興亜ひまわり生命
Hisamitsu
FUJIFILM Value from Innovation
Manulife マニュライフ生命
大阪対がん協会
AstraZeneca
富士レビオ株式会社
伏見製薬株式会社
大鵬薬品工業株式会社
堀井薬品工業株式会社
Otsuka 大塚製薬
中外製薬
第一三共株式会社
NOVARTIS
Cancer+scan
QIAGEN
Merck Serono
Pfizer
IBM

【団体】（社）全日本コーヒー協会【5口】、（公社）日本医師会、日本生命保険（相）、東京海上日動あんしん生命保険（株）、東京海上日動火災保険（株）、富士通（株）【4口】、（公財）日本対がん協会、アメリカンファミリー生命保険、MSD（株）【3口】、（公社）日本歯科医師会、（株）ヤクルト本社、サイニクス（株）、（株）ファルコバイオシステムズ、味の素（株）、（株）レナテック、損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険（株）、久光製薬（株）、富士フイルムメディカル（株）、マニュライフ生命保険（株）【2口】、（公財）大阪対がん協会、アストラゼネカ（株）、富士レビオ（株）、伏見製薬（株）、大鵬薬品工業（株）、堀井薬品工業（株）、大塚製薬（株）、中外製薬（株）、第一三共（株）、ノバルティスファーマ（株）、（株）キャンサースキャン、（株）キアゲン、メルクセローノ（株）、ファイザー（株）、日本IBM、武田薬品工業（株）【1口】

【個人】岡本 直幸様、柳堀 朗子様、その他6名（順不同）

発　行　JACR ニューズレター No.40　2016.9

特定非営利活動法人
日本がん登録協議会（旧称：地域がん登録全国協議会）
JACR Japanese Association of Cancer Registries

日本がん登録協議会事務局　理事長　田中 英夫
〒104-0061　東京都中央区銀座8-19-18　第三東栄ビル503
TEL:03-3547-5992　FAX:03-3547-5993
E-mail:office@jacr.info　URL:http://www.jacr.info/